

本当はこわい圧迫骨折

“圧迫骨折”とはよく耳にする病名で、一般の人でもご存知の方が多いと思います。「ちょっと圧迫骨折をして背中が曲がっちゃって」と言われるご高齢の方も多くいらっしゃり、さほど大病ではないイメージがありますが、骨折した場所や程度により重症になるケースも珍しくありません。

私が脊椎専門で診療を行っているため、重症になった患者さまを治療する度に「こうなる前に治療できていたら」と切に感じ、この度筆をとらせて頂きました。



≫ 圧迫骨折について

圧迫骨折とは

一般的には背中や腰の骨が些細なことで骨折し、変形することをいいます。

症状

痛みが軽くいつの間にか治っていくものから、痛くて起き上がることができないものまであります。後者の場合が病院を受診する患者さまとなります。

なぜ圧迫骨折がこわいのか

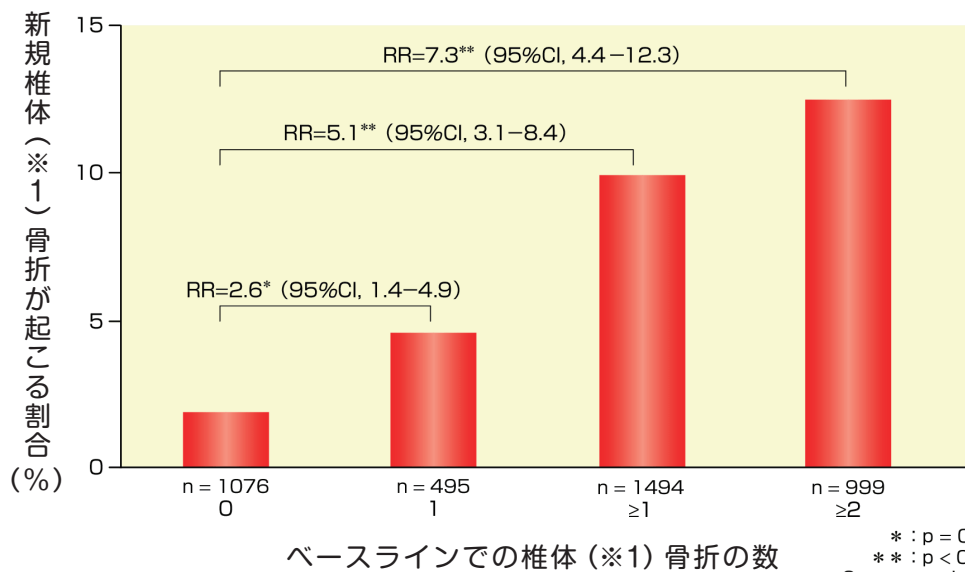
歩行困難になることがある！

昔から我々整形外科医の間でさえも「圧迫骨折はほっといてもそのうち治るから」という考えがあり、現在でもそういう治療を行っている病院は少なくありません。しかし放置して治ればいいのですが、**治療せずに偽関節（骨がうまくくっつかず穴があいた状態）**になって痛みが持続する場合や、**脊髄神経への圧迫や刺激が起これ足の麻痺が出現し、歩行困難となる場合**もあります。

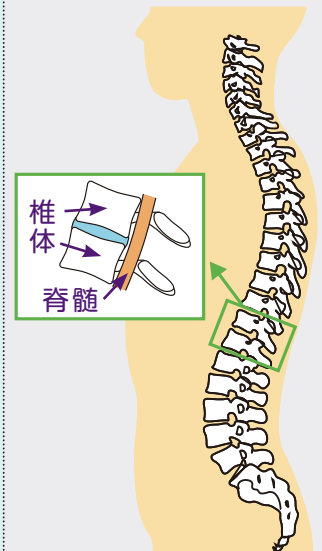


更なる骨折を起こすリスクが増える！

1つ圧迫骨折を起こすと更に骨折する可能性が約3倍になり、骨折数が増えれば更に骨折するリスクも増えていくというデータがあります（【表1】参照）。



※1 椎体（ついたい）
椎骨の前部を占める円柱状の部分。



* : p = 0.002
** : p < 0.001
Cox regression 検定

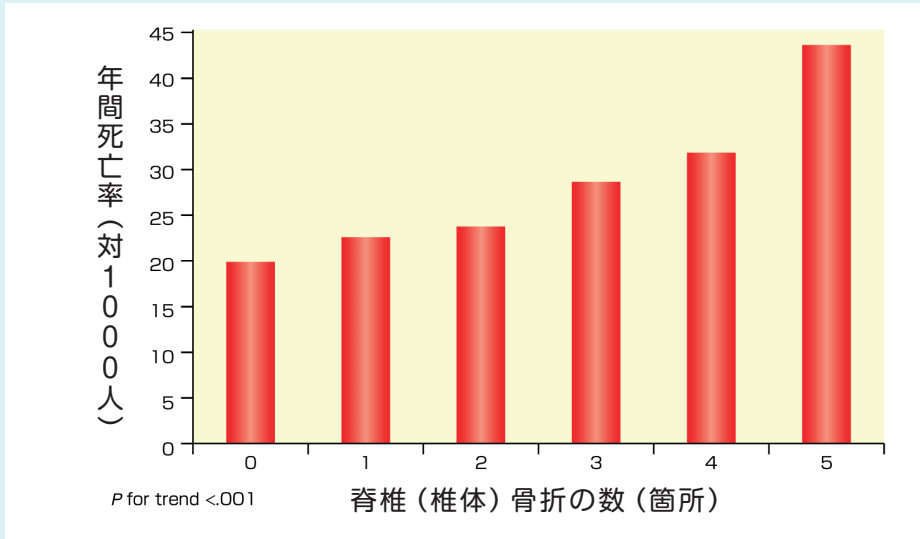
Lindsay R, et al. : JAMA 285, 320-323, 2001一部改変

プラセボ投与群の閉経後女性2725例

【表1】椎体骨折の数と新たに骨折が起こる割合

死亡率が増加する！

圧迫骨折の数が増えれば、同時に死亡率も増加していくというおそろしいデータもあります（【表2】参照）。



Kado DM, et al. : Arch Intern Med. 159, 1215-1220, 1999

【表2】脊椎骨折数と死亡率



ゆえに圧迫骨折といえども決して油断できない骨折なのです!!!

▶ 当院での対応

■手術

通常のX線撮影では圧迫骨折と診断されても、CTやMRIで詳しく調べると実は破裂骨折（脊髄神経がある部分の前方の壁が骨折していること）であり、徐々に椎体が潰れて神経を圧迫し、重症化する場合もよくあります。当院では、脊椎の骨折に対してはほぼ全例にCT・MRIを行い検討し、重症化することが予想される場合は積極的に手術を行い、先手を打つ方針で加療しております。対象となる患者さまは高齢者が多いため、極力手術の侵襲（痛み・発熱・出血など）が少なくなるように脊椎小侵襲脊椎安定化術（小さな傷でネジを挿入し、筋肉の損傷を少なくした手術）に取り組んでおります（【写真1】、【写真2】参照）。



【写真1】術後CT



【写真2】手術痕

■保存療法（手術しない治療）

寝たきりにならず早期にリハビリが行えるように、コルセットではなく体幹ギプス（胴体をすっぽり覆ったギプス）を巻いて、その日から歩行訓練を開始しております。同時に骨密度も測定し、骨粗鬆が骨折の原因と思われる方には、新しい骨粗鬆薬（PTH製剤；骨の形成を促進する自己注射薬）を積極的に使用しております。

前述のように、圧迫骨折についての治療は画像診断技術や術式の進歩により、一昔と比べてかなり進化してきております。高齢化社会に伴い骨粗鬆症も増加し、圧迫骨折の患者さまも増加すると考えられます。もし関わることがございましたら、いつでも当院までご紹介、ご受診して頂ければと思います。

